

(別紙5)

整理番号 2018P-068
補助事業名 平成30年度 検診車の整備 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 宮城県対がん協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

今回採用したフラットパネル搭載の検診車はCR方式に比較すると操作性に優れ低線量で高画質の画像撮影が可能となり、また画像表示も速いことで検診の待ち時間も減少し、受診者の負担軽減にもつながる。

(2) 実施内容

乳がん検診車 (<http://www.miyagi-taigan.or.jp/>)

検診車右側面



検診車後方



撮影装置



撮影装置正面



撮影装置については、日本人女性に最適な検査環境をお届けすることをコンセプトに開発されており、フラットパネルは高画質、高効率な直接変換式を採用しております、

2 予想される事業実施効果

最新鋭のフラット[®] 礼搭載の乳がん検診車を整備したことにより、低線量で高画質の画像撮影が可能となり、短時間で撮影・確認できることから受診者への負担が軽減し効率の良い検査が行えることが見込まれます。

3 印刷物等


本事業に係わる印刷物等

① 平成31年3月28日 命名披露式開催時に作成したパンフレット

<http://www.miyagi-taigan.or.jp/>

乳房集検用デジタル検診車 すみれ8号

平成31年3月28日



このたび、宮城県対がん協会では、デジタルマンモグラフィ検診車としては4台目となる「すみれ8号」を作製いたしました。
今後とも、県内女性の乳がん低発症を目標に努力してまいります。

公益財団法人 宮城県対がん協会

〈 構造および装置 〉

- シャーシ 三菱 3PG-FY74HY
車体全長 10,950 mm ホールベース 7,050 mm
車体全高 3,030 mm 出力 304 PS
車体全幅 2,490 mm 定員 4名
室内高 2,300 mm 総重量 16,770 Kg
- ボデー装置 合資会社 中北車体工作所
- 搭載装置 キヤノンメディカルシステムズ製 Per-ru DIGITAL 2台

乳がん対策別検診成績

| 対 象 | 受診数 | 検診結果 | | 乳がん検診 | | その他 | |
|---------------------|-------------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| | | 乳がん(検) | 乳がん(診) | 乳がん(検) | 乳がん(診) | その他(検) | その他(診) |
| 西 域 | 1,676,351 | 94,569 | 62,240 | 2,621 | 413 | 80,725 | 11,295 |
| 縣 域 | 178,468 | 17,264 | 9,754 | 264 | 74 | 16,765 | 2,478 |
| 合 計 | 1,756,819 | 111,833 | 71,994 | 2,885 | 487 | 97,490 | 13,773 |
| 県 別 検 診 | 12,247 | 2,224 | 1,465 | 207 | 41 | 2,135 | 465 |
| 県 別 検 診 | 32,098 | 3,684 | 2,111 | 197 | 18 | 709 | 311 |
| 合 計 | 14,752 | 3,242 | 1,975 | 404 | 59 | 2,844 | 776 |
| 健康観察者から の がん 発 見 | 24,159 | (35.52) | (13.41) | (3.05) | 59 | 2,828 | 218 |
| | (18~28,800) | | | (0.71) | | | |

※がん生活習慣病検診結果をのぞく

平成29年度がん死亡数の部位別割合 一宮城県一

男


肺癌 18.06%
胃癌 11.91%
大腸 8.11%
肝臓 4.62%
膵臓 3.58%
乳がん 3.05%
その他 39.67%

女

肺癌 18.06%
胃癌 11.91%
大腸 8.11%
肝臓 4.62%
膵臓 3.58%
乳がん 3.05%
その他 39.67%

あ い さ つ

公益財団法人 宮城県対がん協会
会長 久 道 茂



この度、「公益財団法人JKA平成30年度補助事業」により、新しい乳房集検用デジタルマンモグラフィ検診車を作製することができました。本日命名披露式を行うにあたり、一言ご挨拶申し上げます。
皆様には、平素より当協会の各種公益事業に格別なるご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。当協会では、昭和52年に乳がん検診を開始して以来、今日までに乳がん検診受診数は延べ178万人を突破し、3,498名の乳がん患者を発見してまいりました。
しかしながらその罹患率は増加の一途を辿っており、生涯のうち乳がんになる女性の割合は、50年前は50人に1人でしたが、現在は11人に1人と変わっており、また死亡数も依然として増加傾向にあります。
当協会の乳がん検診は、平成23年度より視触診併用の検診方法からマンモグラフィを中心とした画像検診に切り替わり、今年度で8年目となります。これまで以上の乳がん検診の拡大を目指し、更なる精度の向上と検診の充実を図るべく、この度、乳がん検診車を新しく作製いたしました。
この検診車は、最新鋭のフラット[®]礼を搭載するとともに、高画質の機器を装備するなど、これまで以上の高水準の乳がん検診が可能になると考えます。
今回の検診車の作製にあたりまして、ご尽力いただきました関係機関の皆様に対して改めて感謝申し上げます。ご協力をお願い申し上げます。
当協会は公益財団法人としてがん低発症運動を推進し、県民の負担に配慮してまいりますので、今後ともなお一層ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成31年3月28日


乳がん検診車すみれ8号の導入にあたって

この度、宮城県対がん協会では4台目のデジタルマンモグラフィ検診車が完成いたしました。平成29年に導入したFPD（フラットパネルディテクタ）搭載の検診車では、CR（コンピュータドグラファ）検診車よりも検診に柔軟・高画質かつ軽便かつとなり、受診者の皆様にはより負担の少ない快適な検査環境をご提供することができるようになりました。しかしFPDの品質管理など新たな課題も見つかり、これらの運用経験を踏まえ更なる検査環境の向上を念頭に置き、最新鋭の検査、輸入実績の高いキヤノンメディカルシステムズ社製のPer-ru DIGITAL を選定いたしました。
今回の製品は日本人女性に最適な検査環境をお届けすることをコンセプトに開発しており、FPDは高画質、高効率な直接露光式を採用しております。
撮影した画像は、USBメモリー等に記録保存して、検診終了後、受診者情報をマッチングし、がん検診センター内のメインサーバーに最終保存をします。当協会では最新のデジタル医療機器を用いて、より多くの乳がん発見につながるような高画質のマンモグラフィを提供していきます。

【すみれ8号検診車】



【検診センター】



(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人宮城県対がん協会
(コウエキザイダンホウジン ミヤギケンタイガンキョウカイ)

住 所： 〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉5丁目7-30

代 表 者： 代表理事 久 道 茂 (ヒサミチ シゲル)

担 当 部 署： 総務課 (ソウムカ)

担 当 者 名： 課長補佐 三部 哲也 (サンベ テツヤ)

電 話 番 号： 022-263-1636

F A X： 022-263-1548

E - m a i l： office@miyagi-taigan.or.jp

U R L： <http://www.miyagi-taigan.or.jp>